

---

# 夕日に染まる君の顔

鈴夜 音猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

「」のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」「おみび」「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夕日に染まる君の顔

### 【著者名】

「」

「」

「」

### 【作者名】

鈴夜 音猫

### 【あらすじ】

ベタつちゃ ベタな恋愛模様

学生カップルの放課後のヒートコマです

甘酸っぱい青春、一粒如何ですか？

放課後の教室。

夕日が差し込む中、私はいつものように君を呼ぶ。

「ねえ、帰る？」

声をかけても机に突っ伏したままの君。  
私が近付いても、ピクリとも動かない。

「…帰らないの…」

君の机の前にしゃがみ込んで、寝ている君の髪に手を伸ばした。  
髪に触れられるのを極端に嫌がる君は、勢いよく顔を上げる。

「やめろよな…」

まだ眠たげな顔で不機嫌に言い放つ君に、私は笑みが溢れる。  
そのせいで益々拗ねてしまつた君が可愛くて。

「何で触られたくないの？」

おちよくもつもつで何気無く聞いただけだったのだけれど。

「…もつと触りたくなるから」

「…つー」

不意打ちを食らって思わず口を手で覆う。

真っ赤になつた私を見て、君はフイ、と視線を反らした。

「ほり、帰るぞ」

わざわざと先に歩き出す君を慌てて追いかける。

ねえ、君のその横顔が赤く見えるのはタロのせいだけじゃないよね？

【End】

（後書き）

「」で読んでいただきありがとうございました

今まで全く執筆していなかつたのですが、久々の投稿です。

ベタな恋愛、ですが経験全くありません（笑）

少女漫画的な恋愛ぐらしさか思ひ浮かばず

「」なん出来ました

的な心境です（笑）

さてさて。

これからまた書き続けられるか分かりませんが、よろしければ次回  
またお付き合いください。

ありがとうございました

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1436/>

---

夕日に染まる君の顔

2010年10月10日18時28分発行